

邪魔者扱いへそ曲がる

そりゃあ、へそも曲がるだろう。

シルバーマークを付けただけで、「あつ、高齢者だ。あぶない」などと邪魔者扱いされれば。

「高齢運転者標識」は、70歳以上で、加齢が自動車の運転に影響するおそれのあるひとを対象とするという。が、標識を付けないひとと多い。気持ちちは分かる。最近の日本の高齢者は5歳から10歳は若返っているというデータもあるのだ。

確かに、交通死亡事故数をみると、

車のシルバーマーク

若年層と高齢者層に高いピークがみられる。ことに高齢者層での、ここ10年で倍増というのはきつい。テレビでは、高齢者の「高速道路での逆走」や、「ブレーキを踏み間違え」で死亡事故が起きたと繰り返す。高齢者イコール認知症といわんばかりでもある。

先日、ワッシーのクリニックの前でも事故が起きた。幸い、ケガをしたとはいなかったが、車は大破した。ブレーキとアクセルを間違えた



のだ。事故を起こしたのは高齢者だが、初めてのことで、もちろん認知症ではない。ただの不注意、勘違い、思い込みでも事故は起きるのである。

90歳になるAさん。3カ月前に脳梗塞を起こし、ごく軽い左手足の麻痺が残っている。が、日常生活に支障はない。夫婦で、「センス。車は運転しても良い？」と、懇願調である。

高齢者＝認知症じゃない

年なんて関係ない。今の世の中、車は生活の必需品だ。車を運転できなければ、病院へ行けないし、スーパーにも行けない。もっとも、Aさんには年齢相応のもの忘れはある。からだの動きも遅い。若い先生なら、即座に「運転免許は返納しなさい」と言うだろう。だが、ワッシーは、「いいよ。ただし、奥さんが同乗すること。近くのスーパーと病院だけ。スピードは出さないこと」などを条件にして運転を許可した。ワッシーは間違っているのだろうか？

(石黒修三 しいしげるクリニック・脳神経外科専門医、金沢市在住)